

5. 窓ヶ山山域

窓ヶ山(712m)は西峰、東峰の岩山からなり、中央鞍部が切れ込んだキレットとなっている。その雄姿は電車が八幡川橋梁を通ると遠く望まれ、登行意欲を掻き立てる。頂上付近の花崗岩の岩場は、岩登りのグレンデとして知られているが、谷としては、キレットに突き上げる堂ヶ原川の水晶谷が、魚切からの東峰登山道から大滝が望まれることから、よく知られており、登行記録も見受けられる。その他の南面から八幡川に流入する各枝川も、流程はそれほど長くはないが、傾斜がある花崗岩の谷で、概ね明るく爽快な沢登りが楽しめる。最も流程が長いのが下足谷で、大きな滝は少ないが、深いゴルジュが最後まで続く良い谷である。とちが谷の右俣、中俣、左俣は、中流部のゴルジュ帯に大滝を擁し、登攀的要素が強い。流程は短いので、繋げれば充実するだろう。西寄りのひっさか谷と小原谷はごく短い切れ込みは深く、陰惨な印象の手強いゴルジュを擁する。東寄りの古野川では、黄幡社のある石原谷が、芸藩通志にも書かれた犬返の滝を有し、遡行価値が高い。古野川支川は、荒れた谷で遡行価値はない。窓ヶ山の北面は山腹を西平次林道が横切り、また流程も短いので遡行対象になる谷は、日浦畑川支流のコズミ谷程度である。この谷には千代女の滝の言い伝えがある。窓ヶ山の山域は杉の植林が多く、倒木に苦勞する場所もあるが、尾根筋や谷筋には自然林も残されている。下山路は一般登山道が利用できるが、各谷の兩岸の尾根には概ね作業道の踏み跡が残っており、藪も少ないので起点に戻る場合には利用できる。例外は、石原谷の左岸尾根で伐採後の2次林の藪が酷い。

窓ヶ山 古野川黄幡谷 犬返し滝

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3400754.html>

日程 2021年07月31日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 バス 藤の木団地

コースタイム 日帰り 山行 3時間29分 休憩 21分 合計 3時間50分

S 藤の木団地 09:15 09:30 黄幡社 09:35 黄幡谷入渓点 09:40

10:09 二俣 11:20 谷の詰め 11:54 584 頂 12:10 12:25 仏峠

13:05 藤の木団地 G

コース状況/危険箇所等 窓ヶ山～仏峠～藤の木団地の一般登山道は、仏峠からの下りで一か所崩れている所以外は問題なし

芸藩通志*に描かれ、「八幡川歴史探訪ガイドブック」**では、「上小深川・野登呂の黄幡社のある谷を行くとあるといわれているが、今は道もなく難しいでしょう」と紹介されている古野川黄幡谷(石原谷)の犬返し滝を探ってみた。黄幡社の脇の山道を進んで道がなくなるところで、谷に降りた。大きな谷ではないが、南向きで自然林のため明るく、傾斜があるため滝は多い。二俣まででは、5m 瀑の直登が厳しかった。二俣を超えたあとに、犬返し滝と思われる兩岸が切りたち厳しい雰囲気のある7m 瀑があった。直登は難しく、右岸を戻って大きく高巻くことになった。その後も滝は続くが、最後は急なガレとなって 584 頂(芸藩通志では水串山)の南尾根に消えてい



る。猛暑の急坂を尾根まであえぎ登り、途切れ途切れの仕事道をたどって 584 頂の登山道に出た。登山道は風が涼しく、ほっとした。(写真は犬返の滝)

* <https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/f/7/f71d9098.jpg>

** <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/saekiku/1841.html>

窓ヶ山 晩秋の古野川黄幡谷～高平山

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3824519.html>

日程 2021年12月11日(土) [日帰り]

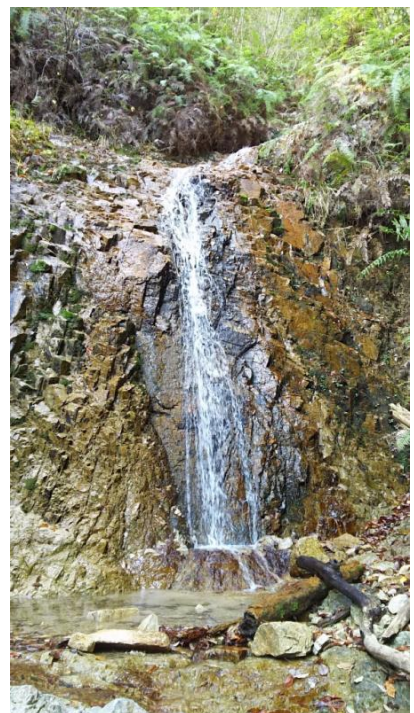
アクセス利用交通機関 車・バイク 古野休息所のわきに駐車場あり

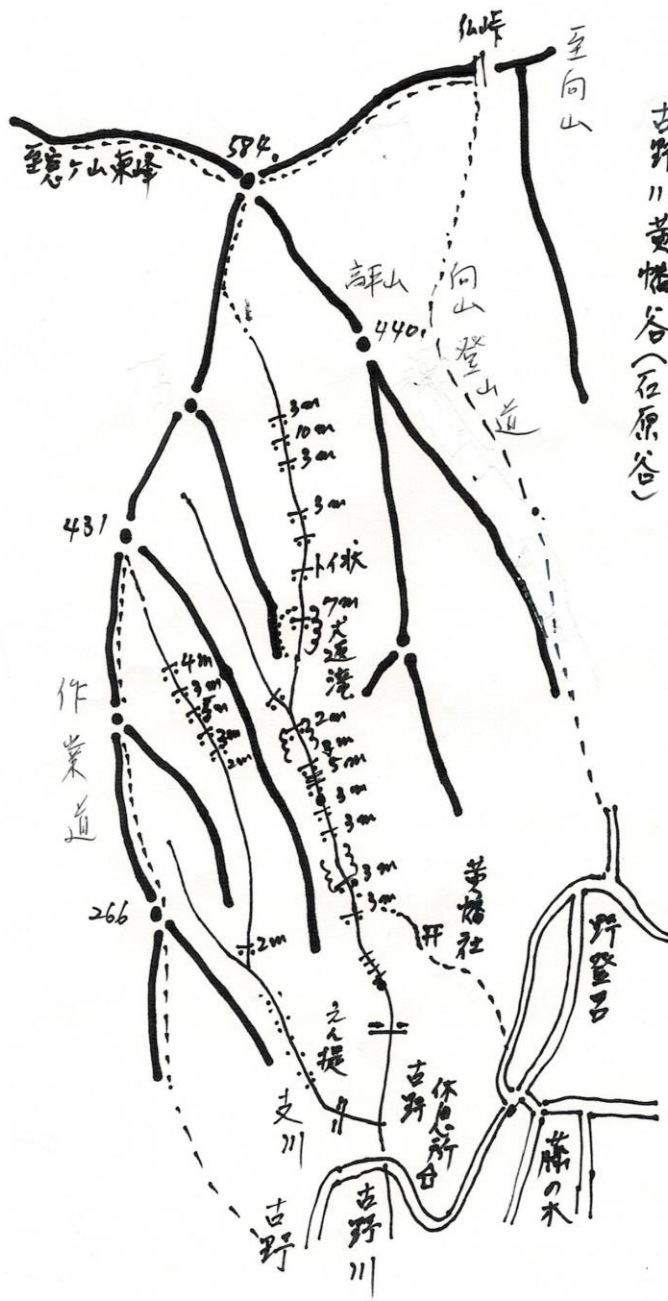
コースタイム 日帰り 山行 3時間50分 休憩 15分 合計 4時間5分

Sスタート地点 08:58 11:15 高平山 11:30 13:03 ゴール地点 G

コース状況／危険箇所等 高平山へは踏み跡なく、酷い灌木の藪漕ぎになる。

12月にしては暖かい日、古野川黄幡谷(石原谷)を再訪し、左岸の高平山の尾根を下降した。高平山は窓ヶ山東峰の東稜線上にある水串山 584m 頂から南東に延びる尾根にある。「河内の山と川の歴史」によると、野登呂の高平山の中腹に舟が休みという場所があり、昔は薪を取りに帰る途中、岩に腰を下ろして瀬戸内海や舟を見て休息したといわれる。江戸時代、薪は死活問題であり、山争いがあったほどである。そんな舟が休み岩を見つけるのが今回の目的である。晩秋の黄幡谷は夏に比べて水量は少なく、落ち葉に綾取られて静かであった。谷を詰める途中、高平山の主尾根から少しはずれたところに、高さ1m、長さ2mほどの舟形の岩があった。主尾根では岩を見なかったのが、これが舟が休みの岩なのかもしれない。今は、薪を取りに訪れる人としてなく灌木が発達し、すっきりとした展望はなかったが樹間から五日市方面が見えた。昔は海も、もっと近かったのだろう。高平山は下部の植林を除いてコナラ・ミズナラ・アカマツ林で良いのだが、踏み跡がほとんど無く、つつじ等の灌木の藪が続く。つつじ、藪の少ない東寄りの方を選んだが、下りの最後は、黄幡谷寄りに取って、黄幡社からの山道に出るべきだったかもしれない。舟が休み岩も、この黄幡社からの谷沿いの山道の延長上にあった可能性もある。また、探る機会があるだろうか。(写真は5m滝)





古野川黄幡谷(石原谷)

窓が山 堂ヶ原川水晶谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3421119.html>

日程 2021年08月07日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 窓が山魚切登山道の車止め手前の退避スペースに駐車可

コースタイム 日帰り 山行 4時間33分 休憩 20分 合計 4時間53分

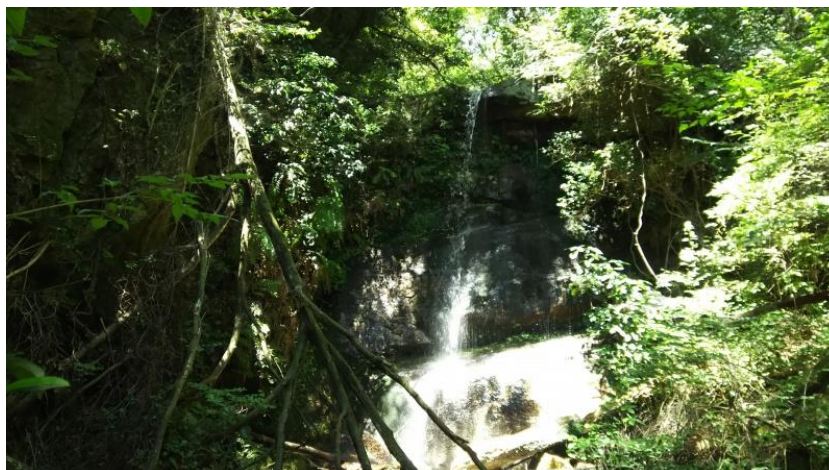
S 窓が山魚切登山口 10:05 10:20 東峰ルート入渓点 10:25 11:27 二俣 12:00 大滝上 12:15

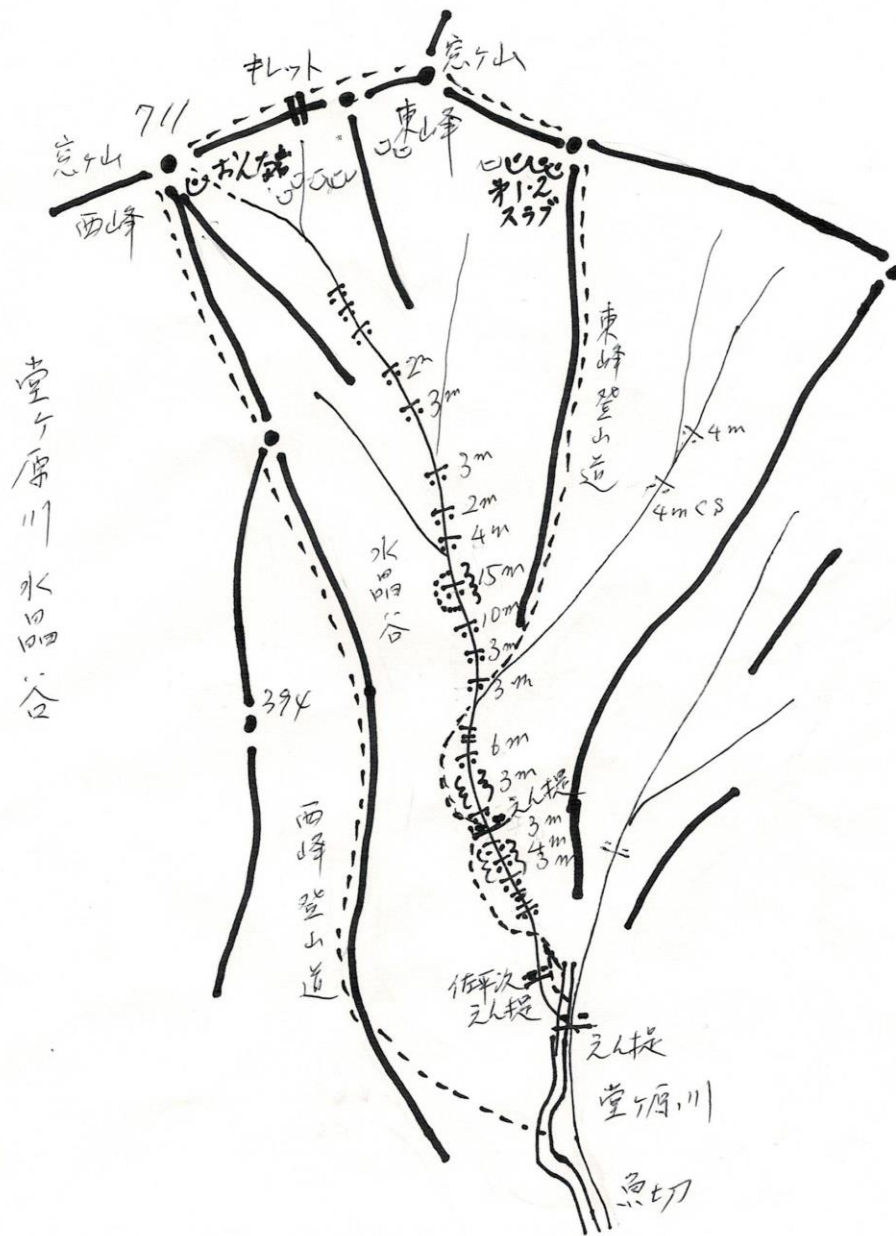
13:20 詰めのルンゼ 14:06 登山道 遠藤小祠 14:11 窓が山西峰 14:58 窓が山魚切登山口 G

コース状況／危険箇所等 窓が山の魚切登山道西峰ルートは、登る人が比較的少ないので、落ち葉で道が隠れ、すべりやすい所と分岐が不明瞭な所があるが、気をつければ問題ない。

窓が山の魚切東峰ルートを登下降する度に気になっていた堂ヶ原川水晶谷を遡行した。登山道が二俣までは右岸沿いに、二俣からは左岸の尾根を登っているが、谷に降りないと全容は見えない。二俣から上は、迫力ある渓相で本格的な沢登りになる。詰めも頂上直下のスラブの岩場に阻まれ、厳しいルートファインディングと藪漕ぎを強いられるが、それだけの価値がある谷であった。(写真は15m大滝)

☞ 15m大滝は右岸を戻って高巻き、落ち口上部に降りる。





窓ヶ山 堂ヶ原川右谷(津江迫)

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3636920.html>

日程 2021年10月16日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 魚切登山口の市道終点の橋手前に駐車可(2台ほど)

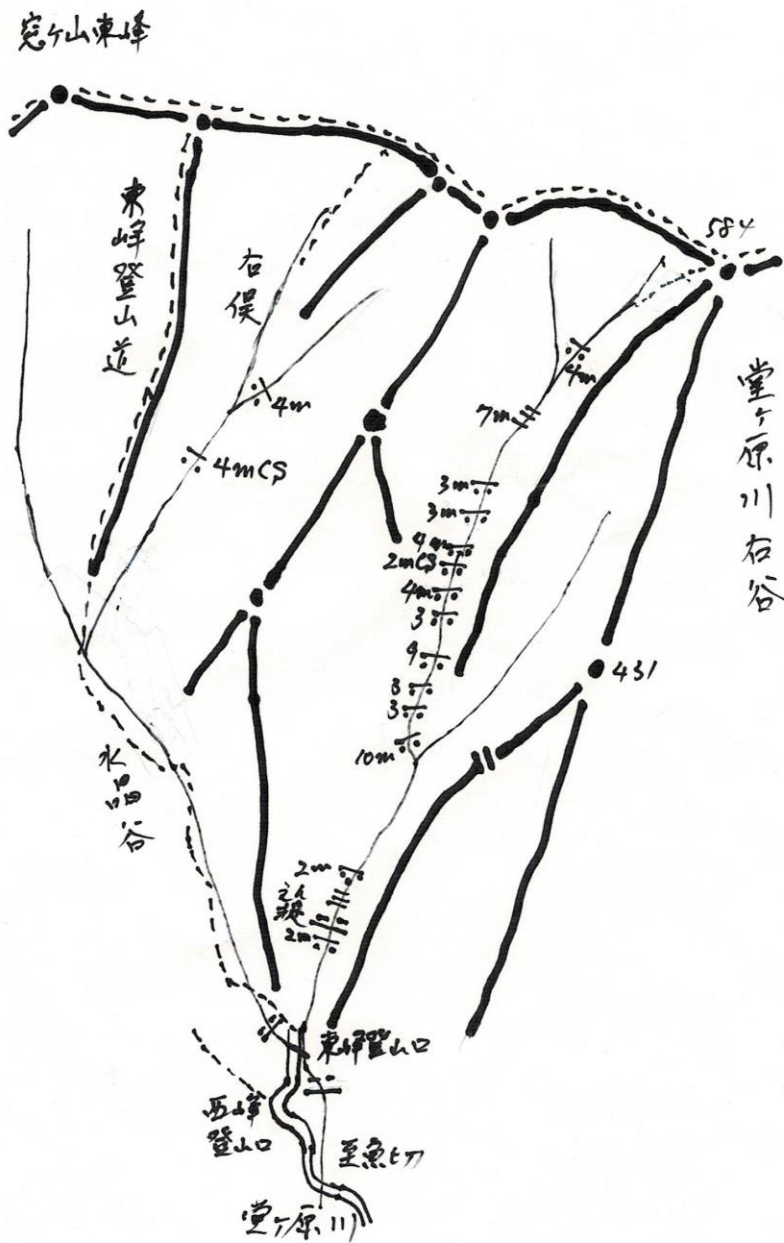
コースタイム 日帰り 山行 3時間27分 休憩 10分 合計 3時間37分

S窓が山西峰ルート登山口 08:40 10:30 584m ピーク 10:54 水晶谷右俣下降点 11:20 水晶谷右俣奥二俣 11:30 11:56 水晶谷二俣登山道 12:17 ゴール地点 G

コース状況／危険箇所等 窓ヶ山東峰魚切コースは荒れており谷を横切る箇所ので道を迷いやすい。

窓ヶ山を巡る主要な谷で残っていた堂ヶ原川右谷を登ってみた。地形図では左俣出合いは等高線が混んでおり期待できそう。なお、「河内の山と川」によれば、古い地名では、この辺りは津江迫とある。つえるは崩れる、迫は小谷をいう。堂ヶ原川左谷の水晶谷に比べて谷のスケールは劣るが、滝は多くナメもきれいで、また心配していた植林の倒木帯もそれほどでもなく、楽しめた。下りに使った水晶谷右俣は源頭の雰囲気はよかったが、殆ど何もない谷であった。窓ヶ山の谷で1番は下足谷、2番はとちが谷左俣、3番は水晶谷といったところだろうか。(写真は左俣出合いの10m滝上部)





窓ヶ山 八幡川支流庄屋谷・夏焼谷～上足谷下降

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3792051.html>

日程 2021年11月28日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 下足谷橋下の公園横の路肩に数台駐車可

コースタイム 日帰り 山行 4時間43分 休憩 10分 合計 4時間53分

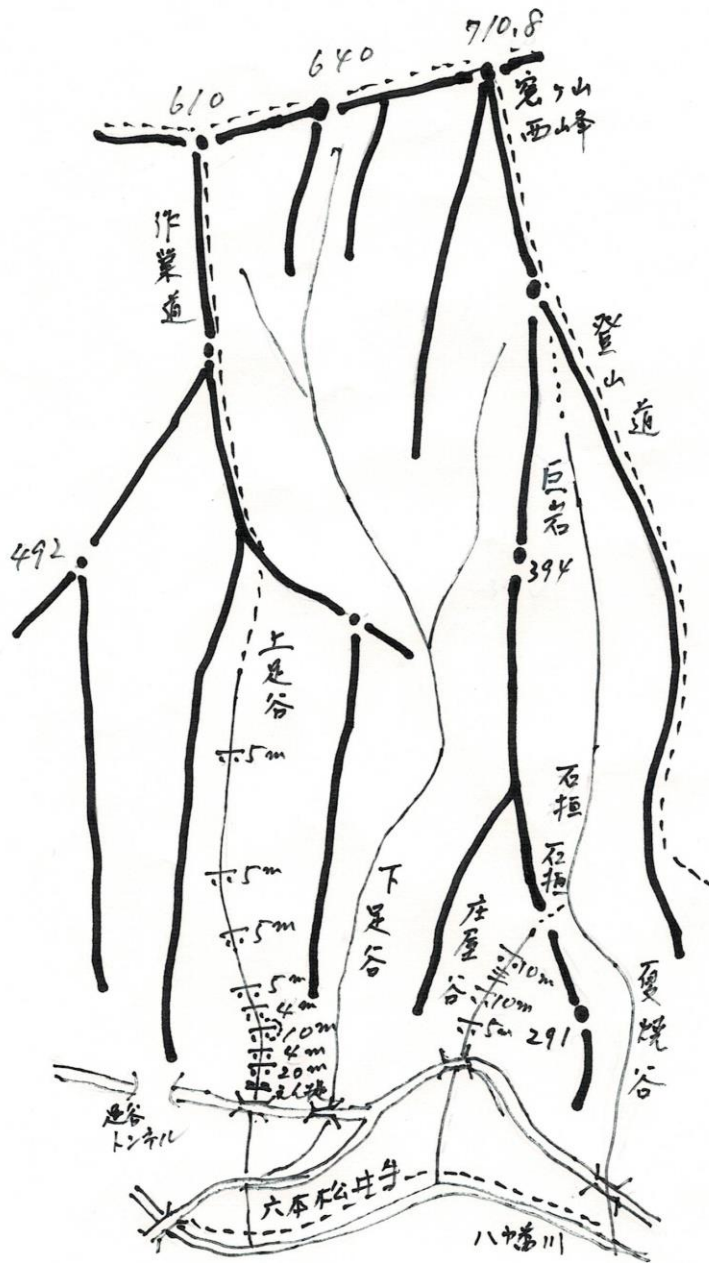
S 下足谷橋公園 09:04 09:23 庄屋橋 12:01 窓ヶ山西峰 12:27 650ピーク 12:37 13:53 上足谷橋 13:57 下足谷橋公園 G

コース状況／危険箇所等 温泉大橋から庄屋橋までは六本松井手をたどる。窓ヶ山西稜の650ピークから南の492ピークへの南尾根の踏み跡は赤テープもあり割とはっきりしている(途中まで利用、下半分は不明)。途中から南南東へ分岐して足谷トンネルへ降りるルートは下足谷遡行後の下山路としてよいかもしれない。

窓ヶ山の南面の谷コンプリートを目指して、落穂拾い的な庄屋谷・夏焼谷・上足谷を結ぶコースを歩いてみた。スタート点の庄屋橋、ゴール点の上足谷橋とも不法投棄ゴミが多く、悲しかった。間に挟まれた下足谷のきれいさが奇跡的に思えた。倒木も多く、公開しない方がいいような記録ではあるが、後学のために上げておく。庄屋橋の下へは八幡川にかかる温泉大橋の手前から六本松井手(田に水を引く用水路)をたどって行くが、途中にホテル廃墟など見え、ここはかつて、「広島陽のあたらないところ」の中国痴呆建設局さんが通った道*であると思えば感慨深い。庄屋谷、上足谷とも水量は少なく、核心部は出会い付近の等高線の詰まった部分のみである。庄屋谷と夏焼谷は280付近の平坦部で近づいており、地形図からは上流部がどちらの谷かはっきりしなかったが、西峰魚切登山道の上部は上山の内庄屋という地名であるし、夏焼谷には耕作地の跡があることから、人為的に庄屋谷の流れを夏焼谷に奪ったようにも見えた。下山に使った窓ヶ山西稜650ピークから南に延び492ピークを通る尾根は、割とはっきりした踏み跡が続き、良い雰囲気であった。(写真は上足谷2段10m滝)



* <http://yuquihiro.blog118.fc2.com/blog-entry-183.html>,
<http://yuquihiro.blog118.fc2.com/blog-entry-182.html>



寛ヶ山八幡川支流 庄屋谷・夏焼谷・上足谷

窓ヶ山 八幡川支流 下足谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3467714.html>

日程 2021年08月28日(土) [日帰り]

アクセス利用交通機関 バス入山口:八幡川峡、下山口:魚切

下足谷橋下の公園脇の路肩に複数駐車可。

コースタイム 日帰り 山行 4時間18分 休憩 32分 合計 4時間50分

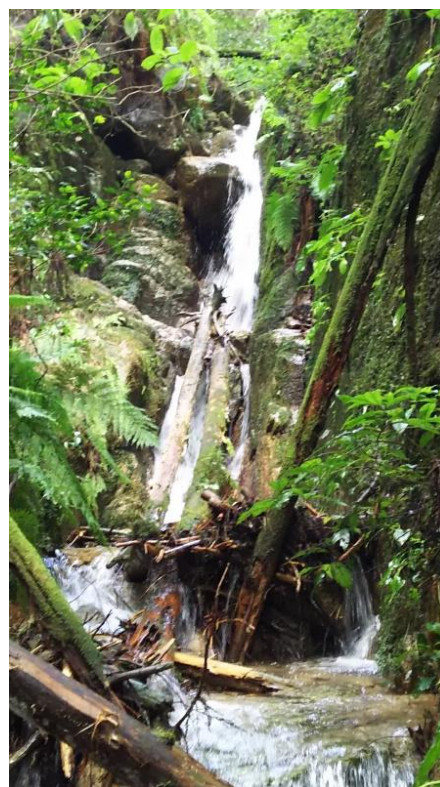
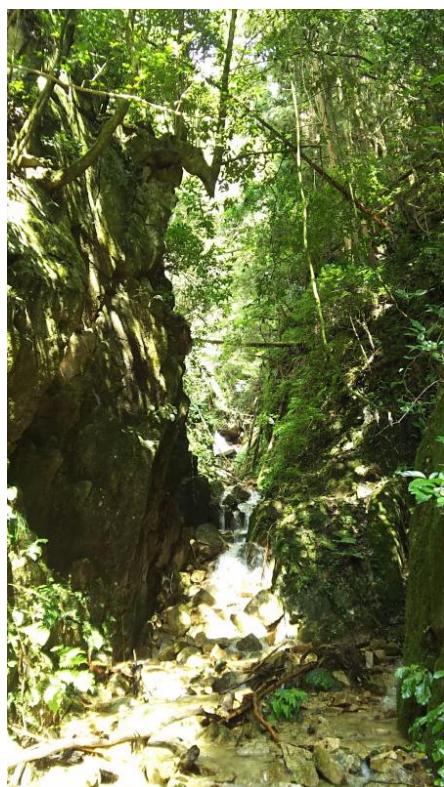
S 八幡川峡バス停 09:30 09:32 下足谷橋公園 09:44 10:30 二俣 12:00 奥二俣 12:40 稜線
12:50 13:05 窓が山西峰 13:15 14:20 魚切バス停 G

コース状況/危険箇所等 先の2021年8月中旬の広島地方豪雨で一般登山道が多量の落下した枝や倒木で荒れている。

窓が山西峰の西稜線から八幡川に直接流入する急峻な南面の谷である。谷の正式な名前が不明であるが、出会いにかかる橋の名前「下足谷(しもあしだに)橋」から「下足谷」とした。足谷=悪谷であろうか? なお、左岸尾根上の394mピークは都志見往来日記や旧河内村図では上(カミ)山と記されている。入渓直後は河原歩きでどうかな?と思ったが、その後は名前の通り、稜線直下まで、いくつもの切り立ったゴルジュの中に滝を連ね、最後まで気が抜けないが、すばらしい谷であった。窓が山に、このような良い谷があったのは驚きだった。(写真は第3ゴルジュ内3m滝と第4ゴルジュ内5m滝)

☞ 第4ゴルジュ内F11(5m)滝は水流左のバンドを登れる。

☞ 第5ゴルジュの大石の被さったF13(4m)は直登が難しく、右手前のガリーから登り、岩壁の50cmほどのバンドをトラバースして巻く



窓ヶ山 八幡川支流 とちが谷 右俣

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3489373.html>

日程 2021年09月05日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 バス 登山口:魚切ダム 下山口:白川上

コースタイム 日帰り 山行 2時間43分 休憩 13分 合計 2時間56分

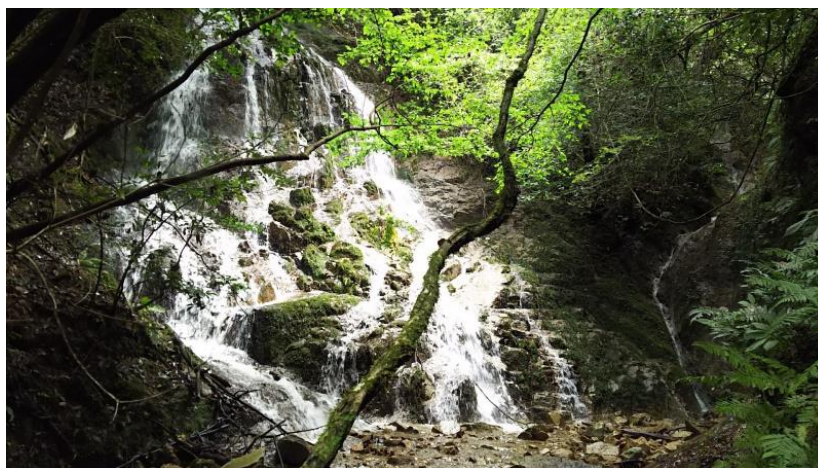
Sとちが谷橋 09:45 10:00 二俣 10:45 奥二俣 11:33 650 ピーク南尾根 11:38 11:52 登山道
12:00 12:19 575.7 ピーク 12:33 「窓ヶ山登山道」入口 12:41 白川上バス停 G

コース状況/危険箇所等 白川までの一般登山道は、先の広島地方 8月豪雨で折れた枝等で多少荒れている。

その他周辺情報 とちが谷橋の下は公園になっている(トイレはなし)。下山口の白川上にはコンビニあり。

窓ヶ山の西峰と白川登山口を結ぶ稜線のほぼ中間あたりから魚切ダムに流入する谷である。地形図を見ると、非常に面白い地形をしていて、最初の狭い谷の奥に等高線の込んだ三俣があり、その上は緩い地形になって、最後にまた急な斜面となって稜線に突き上げている。実際、どうなっているのか確かめたくて遡行してきた。予想通り、三俣には、それぞれ大きな滝がかかり、中でも右俣には合計で40mほどある大滝がかかり、この沢登りのハイライトであった。奥二俣からの緩斜面は植林帯で倒木が多く、遡行価値はないので、はやめに右手の尾根にあがったほうがよかったかもしれない。なお、植林のためか栃の木には気づかなかった。バスを4分差で逃したので、歩いて帰ったが遠かった。(写真は大滝下段の15m滝)

☞ 大滝は下段(15m)、中段(10m)、上段(10m)ともしぶきを浴びてシャワークライムで直登できる。



窓ヶ山 八幡川支流 とちが谷中俣～左俣

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3527788.html>

アクセス利用交通機関 車・バイク 魚切ダムバス停横の待避所に数台駐車可

日程 2021年09月19日(日) [日帰り]

コースタイム 日帰り 山行 3時間30分 休憩 20分 合計 3時間50分

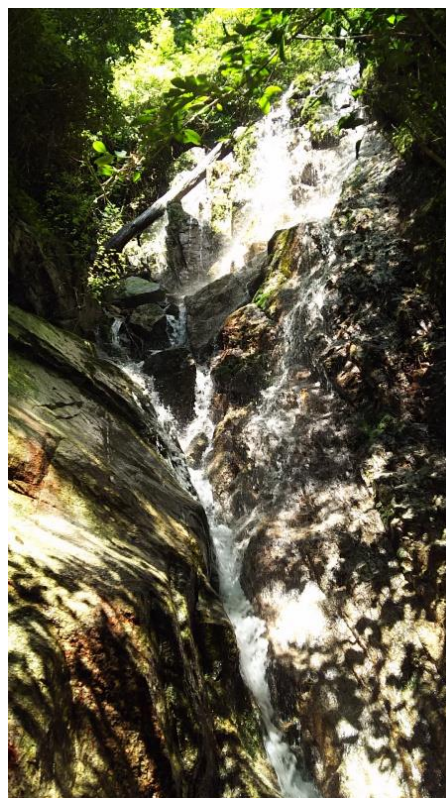
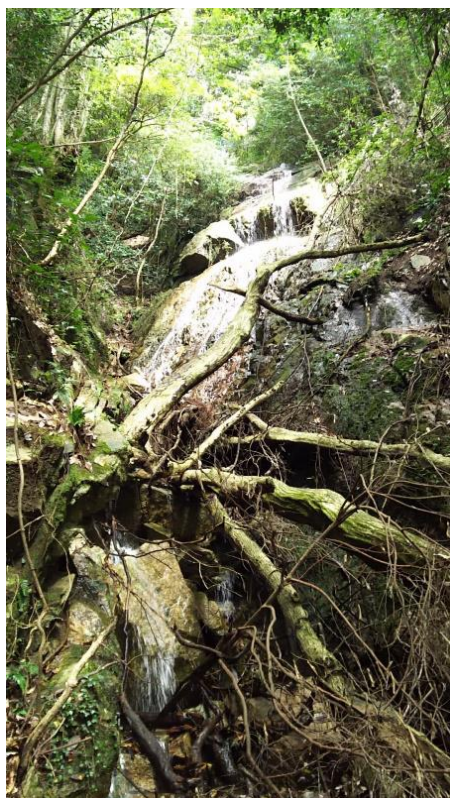
S とちが谷橋 09:40 09:59 二俣(左俣出会い)10:02 中俣出会い 11:28 稜線登山道 11:38
13:00 左俣の二俣 13:10 13:30 とちが谷橋 G
コース状況／危険箇所等 一般登山道は問題なし。
その他周辺情報 とちが谷橋の下は公園になっているが、トイレはない。

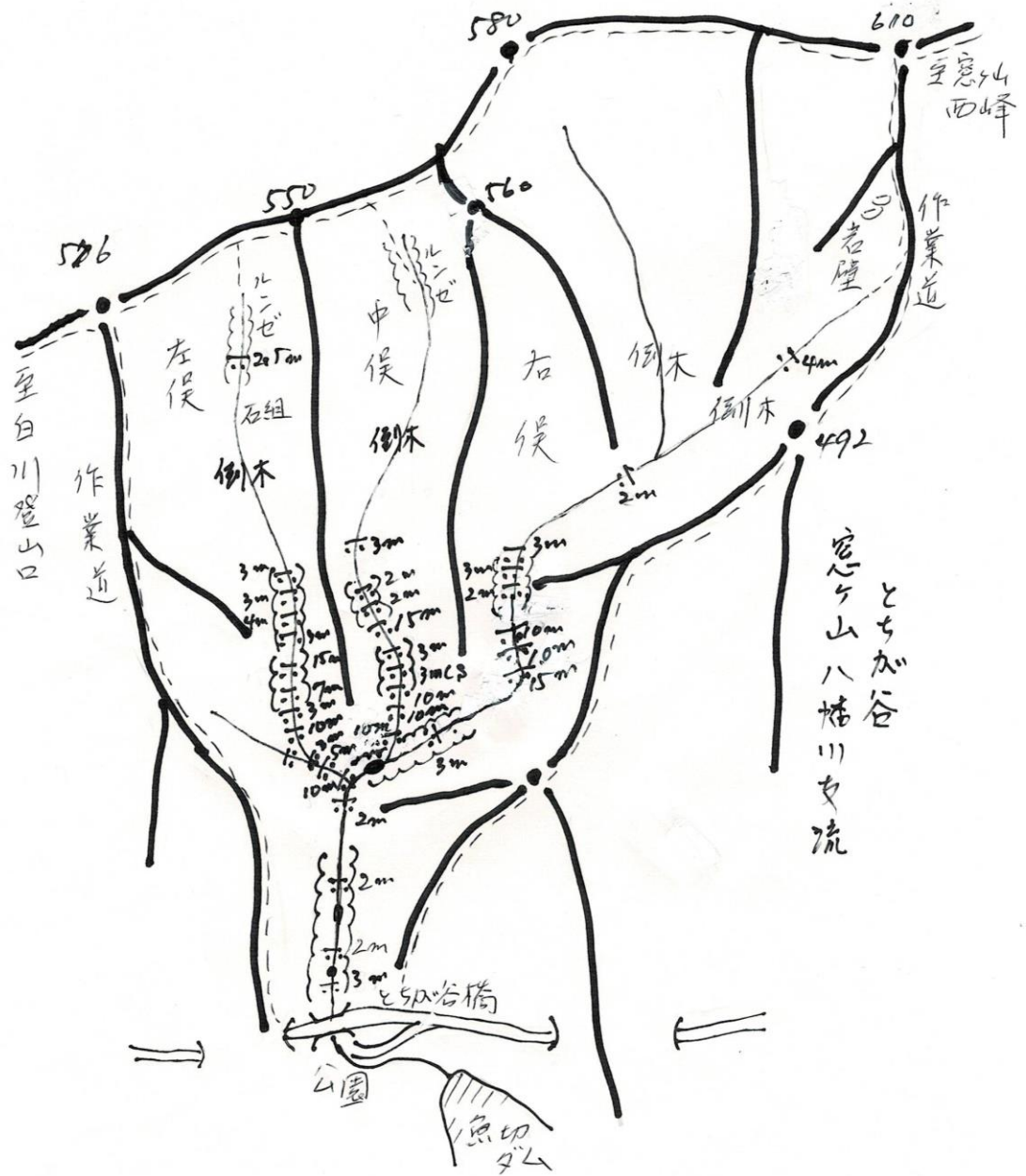
窓ヶ山から魚切ダムに流入する八幡川支流のとちが谷は非常に面白い地形で最初のゴルジュ帯の上で急傾斜の三俣となり、その上は一旦ゆるやかになるが、再び急傾斜のルンゼとなって稜線に突き上げている。前回の右俣遡行で登り残していた中俣を登り、左俣を下降した。右俣では出会い滝が素晴らしかったので、中俣・左俣はあまり期待していなかったのだが、予想に反して中流部にゴルジュと滝が多く、また植木の倒木帯も少なめで充実した沢登りとなった。とくに左俣は、出会い滝はそれほどでもないが、中流部のゴルジュ内の連瀑帯はかなりの悪さと迫力であった。(写真は中俣ゴルジュ内15m滝と、左俣ゴルジュ内7m+15m滝)

☞ 中俣出会いの下段、中段、上段はシャワークライムで直登が可能。

☞ 中俣ゴルジュ内15m滝は中ほどまで右から登り、バンドをトラバースして左に移って直上した。

☞ 左俣ゴルジュ内7m+15m滝は、上段 15m (F8)は、右岸のガリーを途中までくだり、下段の上に降りる。下段 7m (F7)は懸垂で釜に下降した。





窓ヶ山 八幡川支流ひっさか谷～小原谷

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4388075.html>

日程 2022年06月12日(日) [日帰り]

アクセス利用交通機関 車・バイク 県道41号線ひっさか橋西詰の路肩の駐車帯に駐車。(5台)

コースタイム 日帰り 山行 3時間48分 休憩 10分 合計 3時間58分

S ひっさか橋西詰 09:29 09:54 ひっさか谷二俣 11:11 ひっさか谷源頭 12:15 中間尾根の大岩 12:25 12:41 小原谷源頭 13:27 ひっさか橋西詰 G

窓ヶ山の西稜線 575 ピークの西斜面を源頭とし、魚切りダムに流入する、ひっさか谷は、ごく短い谷で、水量も少ない。しかし、地形図で見ると、その切れ込みは深く、傾斜もきつい。さらに、興味深いことに、魚切りダムの対岸から望むと、小原谷との中間尾根の8合目付近に白いスラブ状の大岩が見える。窓ヶ山のスラブは頂上付近に集中しており、このスラブは珍しい。ひっさか谷を逆行して、中間尾根で大岩を探索し、小原谷をくぐってみた。ひっさか谷、小原谷とも、きれいな谷とは言えないが、上部に手強いゴルジュを有し、小粒でもピリリと辛かった。中間尾根の傾斜はきつく、岩まじりの藪漕ぎでの大岩探索はてこずったが、それらしい見晴らしのよいスラブ状岩稜を見つけることができた。窓ヶ山は自分なりの未知を探して遊べる面白い山だと思う。

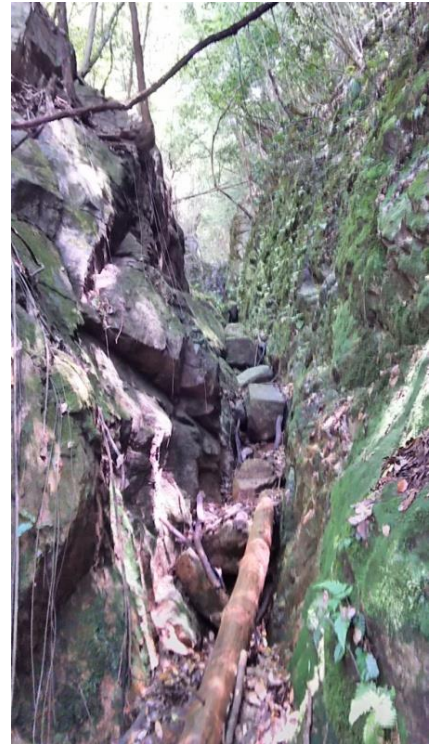
(補足)「いつかいちの地名をさぐる」(昭和53年)によれば、「ひっさか谷」は[低坂谷]上山の内、とある。

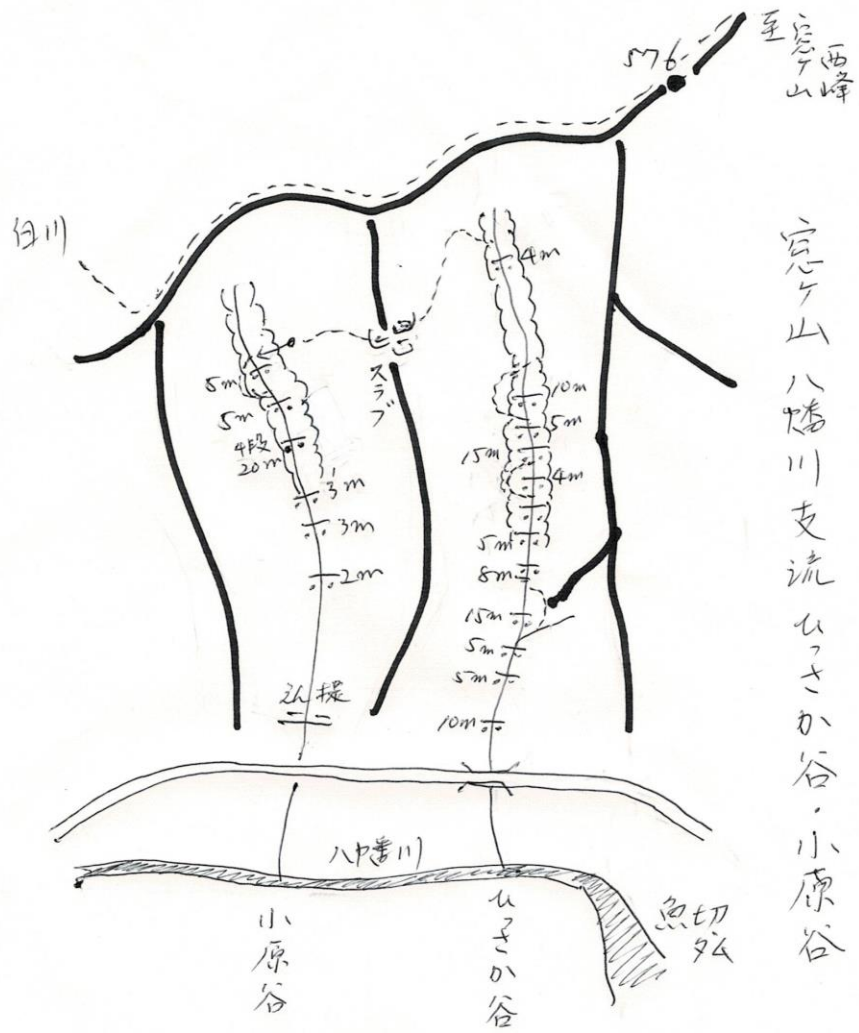
(写真はひっさか谷の幅1mのゴルジュ)

☞ ひっさか谷本流の黒々とした F4 (15m) は、中間尾根を巻く。

☞ ゴルジュの奥の F11 (10m) が単独では登れず、ゴルジュ中ほどの右岸のバンドを伝わって手前に登り、岩まじりの急斜面を大きく高巻く。

☞ 小原谷源頭へは、懸垂 15m で降り、下のゴルジュの滝 5m は、右岸のいやらしい斜面から巻き降りる。





窓ヶ山 八幡川 支流
 むさか谷・小原谷

窓ヶ山 日浦畑川 コズミ谷千代女の滝・迫の谷の滝

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-3683069.html>

日程 2021年10月30日(土) [日帰り]

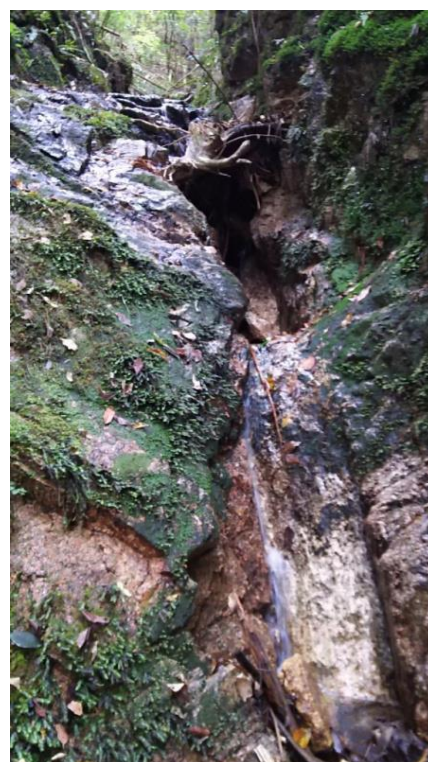
アクセス利用交通機関 車・バイク 白川上から西平次林道に入ってすぐカーブ手前の広めの路肩に駐車

コースタイム 日帰り 山行 2時間9分 休憩 6分 合計 2時間15分

S 白川上 13:00 13:13「窓ヶ山登山道」入口 13:16 コズミ谷出会い 13:22 14:33 登山道 15:00 迫の谷出会い 15:15 白川上 G

コース状況／危険箇所等 下山に用いた白川口までの地理院地図記載の旧登山道は、下るにつれて荒れており、最後は赤テープに導かれて、土砂置き場の反対側に出る。

下河内白川の滝めぐり。千代女の滝は芸藩通志*に書かれ、「ふるさと河内古今探訪」や「八幡川歴史探訪ガイドブック」**には、「全長約30mの滝で2段になって流れ、この滝で腰を打たすとご利益があるといわれているが現在は滝の水は少なくなっている。昔、千代という女性が恋に破れてこの滝つぼに身を沈めたので、その名がついた」とある。確かに滝つぼは砂で埋まっているが、もともと水量の多い谷ではなく、昔それほどの深い滝つぼがあったのだろうか？コズミ谷は思ったより滝が多く楽しめたが、狭い谷で水量が少なく水苔で黒くぬめっているのと、下部は植林帯なので暗い感じの谷である。迫の谷の滝のほうは、「白川を代表する滝の一つで昔は15mあまりの高さより落下する清水が神秘的でしたが、大雨で段々と土砂が堆積して滝の高さも低くなってきたそうです」とある。滝の高さは変わっていないようだが、こちらも周りが植林になって水量が減り、神秘性は半減してしまっているが、林道からのアプローチは良い。今回は時間が無く、滝の上は不明であるが、下山時に探ったおりは滝の音は聞こえなかった。(写真は千代女の滝)

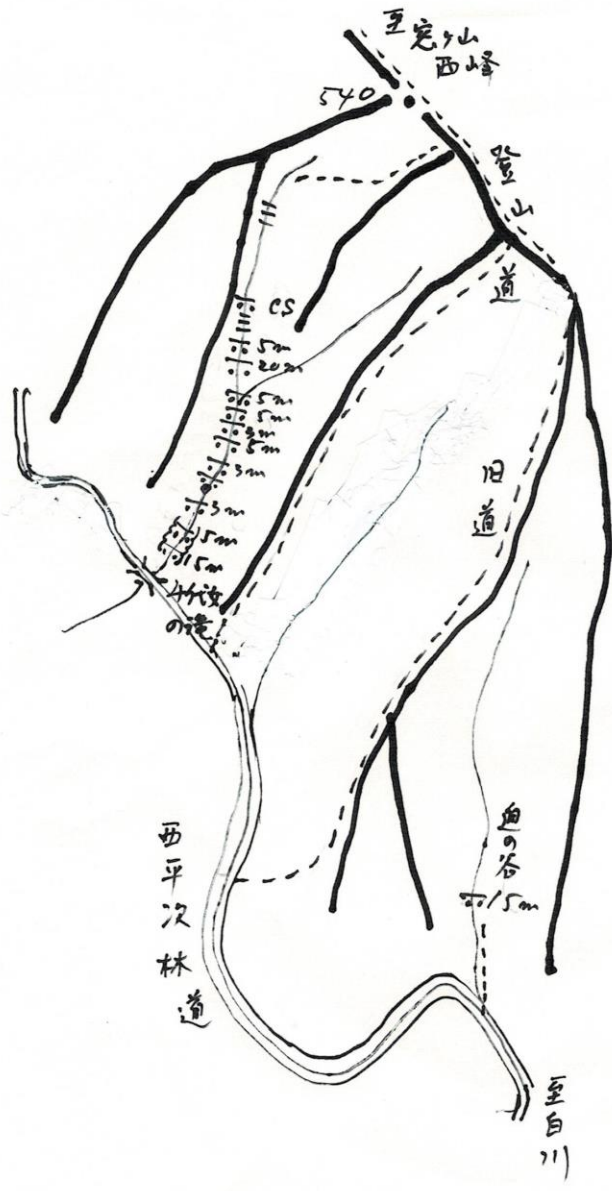


☞直瀑 F6 は、ぬめっているのので、樋状 F5 の手前より右岸を巻く。

☞スラブ状の2段 F9 (20m)は、下段は直登でき、上段7mは左から巻く。

* <https://livedoor.blogimg.jp/tombosou/imgs/e/c/ecd1481d.jpg>

** <https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/9509.pdf>



寛平山日浦畑川支流 コズミ谷